

## 第2回東北ホームタウンサミットIN新潟

平成18年2月4日(土) 15時40分～16時40分

### 基調講演

講師:Jリーグ選手協会事務局長 加藤 富朗 様

演題:Jリーガー達の社会貢献活動



昨日(2月3日)迄Jリーグ新人研修会を行っていた。新人選手に「選手協会を知っているか?」と聞いたが、誰一人としてわからなかった。

選手協会とは、プロ野球労組のサッカー版。いかにサッカーを盛り上げていくかを考えていく団体である。プロ野球労組は労働組合として認められているが、サッカーはそこまで至っていないのが現状である。近い将来には法人格をとりたいと考えている。

プロ野球の平均年俸は3700万円余り。そのうちいわゆる「1億円プレーヤーは何人いると思う?」答えは66人。それとは対照的にサッカーの平均年俸は700万～800万円程度。プロ野球と比べて5分の1である。サッカーの1億円プレーヤーはほんの数人程度である。どうしたら子供たちに夢を与えられるかを常に考えていきたいと思っている。

プロ野球はストライキを行って何とか現状維持を果たしたが、サッカーは拡大を目指している。1993年に10チームで始まったが、現時点ではJ1、J2と併せて30チームがしのぎを削っている。チームが増えているにも関わらず、Jリーグ全体の収入はほとんど増えていない。チーム数が3倍に増えているのに収入が増えていないと言うことは単純計算で平均収入が3分の1に落ちているのではないかと今後どのように収入を上げていくのが課題である。サッカーはA・B・C契約があり、どんなに有能な選手でもC契約から始まる。年俸の上限は480万円。契約金は禁止。J1だと450分、J2だと900分出場すれば次の契約に進める。仮に2年目でA契約になっても上限は700万円。

選手協会として国際スタンダードをどのように取り入れていくかを常に考えている。選手は権利ばかりを主張するのではなく義務を果たすことも重要だ。

- ①契約制度・移籍金問題
- ②イエローカード、レッドカードの問題
- ③在日枠の問題
- ④審判問題
- ⑤セカンドキャリア(引退後)の問題

等々が今行っている選手会の活動である。



- ②のイエロー・レッドカードの問題点は累積枚数が多いと判断されると罰金が科せられることがある。欧州では行為そのものが反紳士的行為だとみなされると罰金が科せられることはあるが、枚数が多いからと言ってそれだけで罰金が科せられることはない。
- ③の在日枠の問題点は、外人枠を使わないで有能な選手を試合に出せるというメリットがあるが、現状は各チーム1人迄しか認められていない。2人以上出せるように改正すると今度は日本人の枠が1人減る事に繋がるので難しい問題だ。
- ⑤のセカンドキャリアの問題点は引退後の選手のサポートをどうすべきかと言う点があるが、現状では

Jリーグキャリアサポートセンターを通じてインターンシップ制度などもある。4年前から始まった制度で、初年度こそ0人だったが、二年目は2人、三年目は13人、四年目は21人がインターンシップ制度に参加。着実に成果が出ている。

Jリーグでは2003年に選手の義務として社会貢献をすることを義務化した。今では30クラブの中で1000以上の社会貢献活動がある。

たとえば身障者への選手シートの提供や選手による病院訪問などがある。そういった活動をしているのにも

関わらずほとんど世の中に知られていないのが現状である。

その他の活動事例を挙げると・・・

- ①本の出版
- ②オールスター戦でのサッカーパークの開催
- ③オールスター期間中断中の各選手による社会貢献活動
- ④チャリティーマッチの開催。中越地震復興支援を目的としたものでは1200万円程度の売上があり、新潟の選手を通じた被災者たちへの分配の実現

等々が挙げられる。

Jリーグとしてのボランティアの定義というのは特にないが、これからも社会貢献活動を行っていくことは揺るぎがないものであるのは間違いない。

< 報告 工藤 衛 >